

[年度] 平成27年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] イチゴ新品種‘紀の香’の育成

[担当機関名] 農業試験場 栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

県内のイチゴ主要品種は‘さちのか’と‘まりひめ’ですが、‘さちのか’は収穫開始時期が遅く収量性が低く、‘まりひめ’は果実品質、収量性ともに高いが炭そ病に弱いという課題があります。このため、炭そ病に強くて、果実品質が良く、早生で果房の連続性が高い新品種を育成します。

[研究の成果]

1. ‘かおり野’を母親に、‘こいのか’を父親として、平成24年4月に交配し、個体選抜と系統選抜を行い、平成28年3月に優良品種‘紀の香’を育成しました。
2. ‘紀の香’の果型は円錐形で、外果皮は赤橙色で果実内部はやや赤く着色します(図1)。果実の硬さは‘まりひめ’より硬く、‘さちのか’よりやや軟らかいです。
3. ‘紀の香’は普通ポット育苗での花芽分化時期が9月上旬で、収穫開始は‘まりひめ’より3週間早い11月中旬の極早生品種です(表1)。



図1 ‘紀の香’果実外観と内部

表1 イチゴ育成系統の花芽分化期および開花、収穫時期

| 品種名 | 花芽分化 | | 開花始期 | 収穫始期 |
|------|-------|--------|--------|--------|
| | 調査日 | 花芽分化指数 | | |
| 紀の香 | 9月7日 | 5.5 | 10月16日 | 11月14日 |
| まりひめ | 9月16日 | 1.5 | 11月2日 | 12月6日 |
| さちのか | 9月16日 | 1.6 | 11月8日 | 12月17日 |

※調査株数:4株、花芽分化指数:0:未分化、1:肥厚中期、2:分化期(2分割期)、3:ガク片形成期、4:雄ずい形成期、5:雌ずい形成期、6:花

4. 年内収量が‘まりひめ’より多く、連続して果房が発生するので厳寒期も連続して収穫できます。総収量は‘さちのか’より多く、‘まりひめ’と同等以上で、上物率は‘さちのか’と同程度です。果実の大きさは‘さちのか’より大きく、‘まりひめ’よりやや小さいです(表2)。

表2 ‘紀の香’の時期別収量および上物率、平均果重

| 品種名 | 時期別収量(g/株) | | | | | | 総収量 (g/株) | 上物収量 (g/株) | 上物率 (重量%) | 平均果重 (g/個) |
|------|------------|-----|-----|----|-----|-----|--------------|---------------|--------------|---------------|
| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | | | | |
| 紀の香 | 66 | 78 | 84 | 87 | 178 | 195 | 688 | 560 | 81.4 | 14.7 |
| まりひめ | 0 | 113 | 118 | 22 | 124 | 180 | 558 | 488 | 87.5 | 16.1 |
| さちのか | 0 | 56 | 92 | 33 | 109 | 198 | 487 | 369 | 75.8 | 12.8 |

5. 果実糖度は収穫初期は低いが、12月下旬には Brix10 以上と高く、‘まりひめ’と同様に推移します(図2)。酸含量は0.4~0.6%程度で‘まりひめ’より多く、‘さちのか’と同等以上です(図3)。

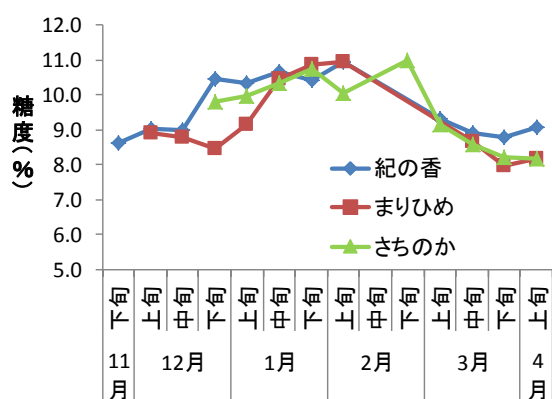


図2 ‘紀の香’の果実糖度

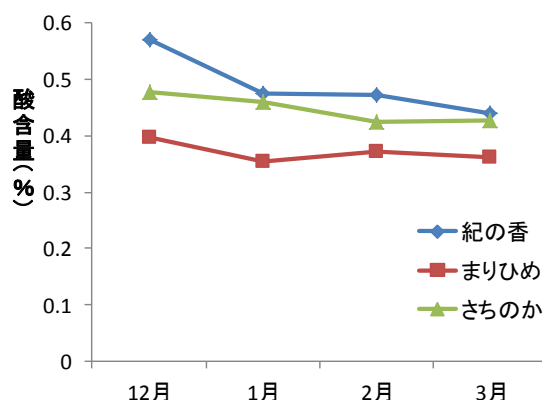


図3 ‘紀の香’果実の酸含量
※クエン酸換算値

6. 炭そ病には罹病性ですが、‘まりひめ’よりも強く、‘さちのか’と同程度の強さです(図4)。

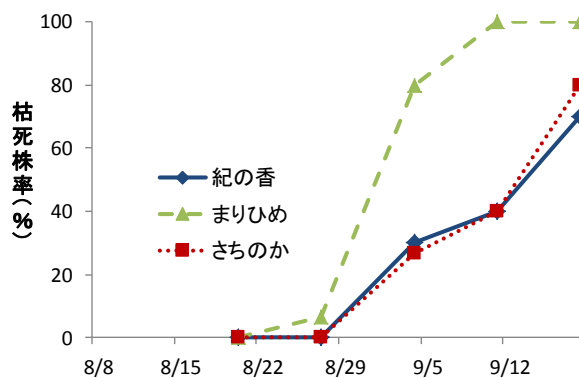


図4 ‘紀の香’の炭そ病による枯死株率の推移
※炭そ病菌接種日：平成26年8月8日

[成果のポイントと活用]

1. 和歌山県のイチゴ促成栽培に適します。
2. 栽培にあたっては、‘さちのか’と同様の炭そ病対策が必要です。
3. 冬期の低温・寡日照と着果負担により矮化し易いので、摘花、電照、加温などにより草勢の低下を防止します。
4. 平成28年3月に種苗登録を申請しました。農家への親株配布は平成30年秋以降を予定しています。

[その他]

予算区分：県単(農林水産業競争力アップ技術開発事業) 研究期間：平成24~27年

研究担当者：東卓弥、田中寿弥、堺勇人、菱池政志、衛藤夏葉

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可